



play.fiba3x3

JAPAN TOUR 2022



JAPAN TOUR

Coronavirus

(COVID-19)

感染予防対策マニュアル

Name

【決定稿】

【目次】

- P3はじめに、ガイドライン策定の基本方針
- P4-8健康管理・感染予防について
- P9-10移動・宿泊について
- P11-16開催時における感染予防対策について
- P17参加資格、その他重要通知事項
- P18選手および関係者エントリーフロー
- P19当日受付フロー
- P20エントリー許可の選手、チームスタッフの皆様へ（事前留意内容）
- P21エントリー許可の選手、チームスタッフの皆様へ（当日留意内容）
- P22健康チェックフォーム（例）
- P23コロナ感染対策フロー
- P24メモ

【はじめに】

本感染予防対策マニュアルは、「JBA バスケットボール活動事業・活動実施ガイドライン 第4版」を参照に作成し、3x3 JAPAN TOUR 2021-2022を安全に開催するためのものである。

なお、本ガイドラインは現段階で得られている知見等に基づき作成しており、今後、状況に応じて、本ガイドラインについても見直すことがあり得ることにご留意ください。

【ガイドライン策定の基本方針】

本ガイドラインの策定にあたっては、以下の項目を基本方針とする。

1) 安全最優先

生命・健康の安全を最優先とし、感染拡大のリスクを最大限に排除した、選手・チーム、指導者、審判、運営スタッフ、それらの方のご家族等が安全に活動できる環境を提供します。

2) 「新しい日常」・「新しい生活様式」への適応

Before コロナの「日常」が即座に戻ることは無いということを前提に、置かれた状況の正確な分析・理解に基づくガイドラインを設計します。

3) FIBA再開ガイドライン

FIBA（国際バスケットボール連盟）より再開におけるガイドラインが公開されており、バスケットボール競技の特性を考慮しながら作成します。

4) 不当な扱いや差別などの禁止

感染状況で異なる活動差をもって選手やチームを不当に扱うことはせず、感染状況に起因する一切の差別や誹謗・中傷を許容しません。

【健康管理・感染予防について】

1) 健康管理・記録

選手、チームスタッフ、審判、関係者、運営スタッフの皆さまは大会14日前から必ず毎日の健康状態チェックを行い、健康チェックフォームへ入力する。

また、万が一に備えて、毎日の行動記録メモを残し、コロナウイルス感染対策責任者を1名配置し、管理をすること。

①体温測定、体調チェック

- ・体温測定：選手、チームスタッフ、審判、関係者、スタッフは必ず毎日実施すること。

【統一事項】

- ・毎日同じ条件、同じ測り方で実施すること。
- ・37.5度以上の発熱が2日間続いた場合は、自宅待機とし即座にコロナウイルス感染対策責任者へ報告すること。
- ・その他、体調の自己申告：(例)せき、頭痛、体のだるさ、のどの痛み、食欲低下、睡眠時間、味覚や嗅覚の異常や発熱症状が無い場合でも、上記症状が続く場合はコロナウイルス感染対策責任者へ報告を行うこと。
- ・体調不良者はコロナウイルス感染対策責任者へ連絡し、コロナウイルス感染対策責任者はJBAに報告すること。

②行動記録

選手、チームスタッフ、審判、関係者、運営スタッフに感染確定、陽性判定、濃厚接触者が出たときに備え、毎日の行動記録を残しておくこと。

行動記録の中でクラスターの発生・感染者・濃厚接触者が発生した場合には、症状等がない場合でも、自身の行動記録の過去2週間内に「自身が行った場所でのクラスター発生」、「対面した人がコロナウイルスに感染した」、「対面した人が濃厚接触者と判断された」場合は、即座にコロナウイルス感染対策責任者へ報告し、コロナウイルス感染対策責任者は即座にJBAへ報告すること。

③新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)のインストール

大会当日(または設営日)までに、新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)をインストールを必ず行うこと。

(厚生労働省が提供するスマートフォン向けCOVID-19アプリをインストールし利用していただきます。陽性者と接触した可能性が分かることで、検査の受診など保健所のサポートを早く受けることができ、利用者が増えることで、感染拡大の防止につながることを期待されます。)



【健康管理・感染予防について】

2) 感染対策(選手、チームスタッフ、審判、関係者、運営スタッフが対象) 「新しい生活様式」の実践例

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、**できるだけ2m(最低1m)** 空ける。
 - 会話をする際は、可能な限り**真正面を避ける**。
 - 外出時や屋内でも会話をするとき、**人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する**。ただし、**夏場は、熱中症に十分注意**する。
 - 家に帰ったらまず**手や顔を洗う**。
人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
 - 手洗いは30秒程度**かけて**水と石けんで丁寧に**洗う(手指消毒薬の使用も可)。
- ※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- まめに**手洗い・手指消毒** 咳エチケットの徹底
- こまめに換気(エアコン併用で室温を28°C以下に) 身体的距離の確保
- 「**3密**」の回避(密集、密接、密閉)
- 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



【健康管理・感染予防について】

3) 感染対策（選手、チームスタッフ）

感染のリスクを最小限にするために、新型コロナウイルスの主な感染経路が飛沫感染と接触感染であることを念頭に、感染防止の3つの基本である、十分な距離の確保、マスクの着用、そして手洗い・手指消毒を含めた、以下の感染対策を実施する。

① ソーシャル・ディスタンス（感染拡大を防ぐために物理的な距離をとること）を確保

- ・人と人の間の距離を2メートル以上とり、ソーシャル・ディスタンスを保つようにする。
- ・施設の広さにより、2メートル以上のソーシャル・ディスタンスが確保できない場合は、同時に活動する参加人数を制限する。あるいは、より広い施設や屋外を利用する。
- ・活動中、ベンチでも、このソーシャル・ディスタンスを確保する。
- ・テープやペイントで印をつけることで、ソーシャル・ディスタンスを保つことがある。

② マスクの使用

- ・マスク着用について、感染力の強いウイルスが増えていることから「**不織布**」マスクを推奨します。また、試合中、マスク着用を希望する選手については着用を許可する。但しプレー中に装着する場合は、「布・ウレタン」を熱中症・脱水症予防の観点から推奨します。
- ・顔全体をカバーするフェイスシールド（あるいはヘルメットのようなもの）については、着用している個人あるいはチームメンバー、対戦相手に意図しない怪我のリスクを増加させるため、競技中の着用は許可しない。
- ・チームスタッフ、運営スタッフは常にマスクを着用する。
- ・マスクを着用していない場合は、周囲との距離を十分保ち、不必要な発声や会話を控える。
- ・息のあがるような高い負荷の運動中はマスクを使用せず、ソーシャル・ディスタンスを意識的に確保する。また、運動中以外はマスクを必ず着用する。
- ・ホイッスル代わりに、エアホーンやアラーム付きのタイマーシステムのような人工的に音を発生する機器を用いて対応することもある。

③ 手洗いや手指消毒を行う

- ・施設を利用する前後や、多くの人が頻繁に触る物に触れた後は、石鹸と水で30秒以上手を洗う、あるいは手指消毒(70%以上のアルコール消毒液)を行う。
- ・手指消毒液を人が通りやすいところに設置することで、利用しやすくする。
- ・定期的に手指消毒を行う。（例：水分補給の時）
- ・掲示物等で手洗いや手指消毒を促す。

④ 換気を行う

- ・窓を開けたり、換気扇を利用したりして、常に、あるいは定期的に換気を行う。

⑤ 備品などの共有をしない

- ・選手間での備品（例：ビブス、タオル）の共有はしない。
- ・選手は各自のウォーターボトル、あるいはペットボトルを使用し共有しない。
- ・ジャグタンクやクーラー等を共有しない。

【健康管理・感染予防について】

⑥施設の管理、清掃、消毒を行う

- ・施設を開放する前に備品を含めた施設の安全確認を行う。
- ・清掃スケジュールを作成し、実施する。
- ・清掃を行う際は、マスクや手袋を着用し、清掃前後は石鹸と水で30秒以上手を洗う、あるいは手指消毒を行う。
- ・鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ごみを回収する際は、マスクや手袋を必ず着用する。
- ・人が多く触る場所や多く通る箇所の清掃・消毒を利用の前後に実施する。
- ・運動器具、用具は定期的に消毒する。
- ・更衣室または待機スペースは、広さにゆとりを持たせ、他の利用者と密になることを避ける。

⑦他の感染予防

- ・顔に触れるのを避ける。
- ・くしゃみや咳をする際には、咳エチケットに注意する。(例：ティッシュ使用か、肘や手で覆う)

4) 感染または、感染の疑いがある場合の報告事項

①報告する事象

下記に当てはまる場合、該当者は自宅待機とした上でコロナウイルス感染対策責任者を通じ、JBAへ報告を行うこと。

- ・37.5度以上の発熱が2日間続いた場合。
- ・せき、頭痛、体のだるさ、のどの痛み、食欲低下、睡眠時間、味覚や嗅覚の異常が続いた場合。
- ・発熱が無くても「息苦しさ(呼吸困難)」「強いだるさ(倦怠感)」等の強い症状が発生した場合。
- ・大会で義務付ける検査以外でPCR検査を予定している。
- ・上記のPCR検査の結果が出た場合。
- ・濃厚接触者指定を受けた、または疑わしい場合。

②報告時に網羅するべき内容

- ・症状が発生している当該者の役職や所属セクション。
- ・発生している症状と、発生期間。
- ・医療機関の受診状況や、チームドクターなどへの相談経過。
- ・選手やチームスタッフ、関係者との接触歴。(症状発生から2日前にさかのぼって)
- ・関係者内での接触歴。(症状発生から2日前にさかのぼって)

③選手、チームスタッフ、審判、関係者、スタッフおよび家族も含めた関係者に疑い例が出た場合の対応

- ・該当者は症状が出た日から14日前までの行動記録と、症状が出た日以降の行動記録のヒアリング、症状を自覚したタイミングで報告/自宅待機を行う。
- ・該当者は速やかに専門家・連携医療機関への連絡する。
- ・各地域の専門家・連携医療機関のアドバイスにもとづく濃厚接触者の洗い出し、濃厚接触者の抽出および集団発生に対するリスク管理を行う。

④報告頂いた内容・相談内容の取り扱い

- ・専門家チーム、JBA内コロナ対応班だけが情報の閲覧を行う。
- ・関係者に共有する場合には、必要に応じて個人情報を取り除いたうえ、共有する。

【健康管理・感染予防について】

5) ワクチン接種について

ワクチン接種は政府も接種を推奨していますので本ガイドラインでも推奨しますが、強制をお願いするものではありません。

ワクチン接種の副作用により、発熱・倦怠感を生じる可能性があり、コンディション低下に繋がる可能性があります。比較的若年者に副反応は、強く出る傾向があると報告されていますが、少なくとも**大会参加の1週間前には接種しないこと**を推奨します。

理由として、発熱が参加可否判断になり得るためです大会参加時には**4日前からの発熱の有無を確認**しますが、この際に発熱が生じている場合にワクチン接種の副反応によるものか、感染による発熱なのかの区別がつかないため、**発熱(37.5度以上が目安)が生じていれば参加不可**とします。よってワクチン接種証明があってもそれだけで参加可能とはなりません。

またワクチン接種の有無によって、選手に差別や誹謗中傷が起こらないようにチーム関係者は留意してください。なお、ワクチン接種後に抗体ができ、効果が現れるのは、約2週間とされています。ワクチン接種後の運動制限（特に接種後当日と翌日のオフ）及びそれ以降に関しても状況に応じて（副反応の出現には個人差がある）、徐々に運動強度を上げていくことを検討するようにしてください。

【移動・宿泊について】

1) 都道府県をまたぐ移動について

緊急事態宣言が解除され都道府県をまたぐ移動が認められることが前提とする。
都道府県をまたぐ移動の制約が再び決定した場合は、JBAに相談のうえ、指示に従うこと。

2) 個人での移動について

- ・公共交通機関を利用しないことを推奨する。
- ・自家用車などで移動する場合も、乗り合わせを避け、個人でのアクセスを推奨する。
- ・移動の際は、個人単位で予防対策を行う。

3) タクシーでの移動について

- ・移動の際は、個人単位で予防対策を行う。
- ・移動中は出来るだけ窓を開け換気を行う。
- ・極力会話を避ける。
- ・乗車前、降車後に手指消毒を行う。

4) バスでの移動について

①バス使用時の留意点

- ・隣り合った座席は1席空ける。
- ・2時間以上などの長時間のバス移動の際には、個人単位でも予防対策を行う。

②チャーターバス利用の際の依頼事項

- ・事前の車内消毒
- ・運転手の体調管理。マスクや手袋の着用。

③その他注意事項

- ・移動の際は、個人単位で予防対策を行う。
- ・移動中は出来るだけ窓を開け換気を行う。（1時間に3回の換気が推奨）
- ・極力会話を避ける。
- ・乗車前、降車後に手指消毒を行う。
- ・座席は隣同士での使用を避ける。（2席横並びの場合、どちらかの席を空ける）
- ・空調などを使用し、車内の空気の循環を良くする。
- ・サービスエリア等での休憩時もマスクの着用など感染予防対策を行う。

5) 新幹線での移動について

新幹線では車内に設置した空気調整や換気装置により6～8分程度で車内の空気を入れ替えています。

※参考：[JR 東日本「新幹線・在来線特急車両の車内空気循環について」](#)

- ・一般の利用者との接点を極力減らすため、座席は出来るだけチームで固まって使用する。
- ・移動の際は、個人単位で予防対策を行う。
- ・極力会話を避ける。
- ・乗車前と降車後の手指消毒、乗車中も手指衛生等に気をつける。

【移動・宿泊について】

6) 飛行機での移動について

航空機内の空気は常に機外から新しい空気を取り入れ、機内で循環され機外へ排出。約3分程度で入れ替わります。また各航空会社で感染拡大防止の取り組みが行われています。

※参考：[新型コロナウイルスに関するJALグループの対応](#)

[ANAの取り組み](#)

- ・一般の利用者との接点を極力減らすため、座席は出来るだけチームで固まって使用する。
- ・移動の際は、個人単位で予防対策を行う。
- ・極力会話を避ける。
- ・乗車前と降車後の手指消毒、乗車中も手指衛生等に気をつける。

7) チームでの食事について

- ・選手の席は1.5~2mの距離をあけること。向かい合わせの配席は避けること。
※十分に広い部屋がない場合、グループ分けして食事時間をずらすなどの対応を行うこと。
- ・食事は基本的に一人ずつ取り分けた状態で用意すること。
- ・食事中、宿泊施設の方は極力部屋にいないようお願いすること。
※片付けはチームが退出したあとに行ってもらうこと。

8) ミーティングについて

- ・基本的にWeb会議などをメインにして、極力対面を避けるように心がけること。
- ・対面でのミーティングを行う場合は極力人数を絞り、常に社会的距離(できるだけ2m、最低1m)が取れる広い場所で行い、換気をこまめに行うこと。
- ・ミーティングを行う際は、出席者全員マスクを着用すること。

9) その他注意事項

- ・自室以外(食事の時以外)ではマスクを着用すること。
- ・エレベーターのスイッチや階段の手すりに、素手で触れないようにすること。
- ・控室の換気をこまめに行う。空気の乾燥によって、鼻、喉や気管の粘膜機能低下が起こりやすくなるため、控室内の状態は温度21度、湿度50~60%が推奨される。

【開催時における感染予防対策について】

◆対策内容

『会場面』

- ・ 入場口の数を制限する。
- ・ 受付に検温器を設置。
- ・ 会場内外各所にアルコール消毒液の設置。
- ・ 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル(使い捨て)を用意する。
(布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにすること)
- ・ 選手控室および更衣室、スタッフ控室はソーシャルディスタンスを図る。
- ・ 使用済みマスクおよび手袋専用のごみ箱の設置。

『競技面』

- ・ 会場内の密を避けるために、男女カテゴリー別で試合を実施。
- ・ 開催カテゴリー間は、器具のアルコール消毒及び選手のバッティングを避けるため、入れ替えに十分な時間をあける。
- ・ 選手、レフリー、スタッフ待機エリアはソーシャルディスタンスでの配置。
- ・ テーブルオフィシャル及びMC&DJは全員マスクを着用。

『その他』

- ・ 選手および関係者、スタッフ全員のマスク着用徹底。
- ・ 選手および大会関係者全員の大会前事前検温及び当日の検温。
- ・ 会場等で発生したゴミを収集する際は、マスクや手袋を必ず着用する。
- ・ ゴミはビニール袋に入れ密閉して縛り、廃棄する。
- ・ マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒する。

【開催時における感染予防対策について】

◆ 体調不良者への対応

(1)新型コロナウイルス感染が疑われる体調不良者への対応

- ・ 厚生労働省が発表している以下いずれかの目安に該当する方は、「帰国者・接触者相談センター」に相談してください。
※ 地域によっては医師会や診療所等で相談を受け付けている場合があります。
- ・ 症状が強い場合は、翌日まで待たずにセンターへ相談、または病院受診を検討してください。
 1. 息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)、高熱などの強い症状のいずれかがある場合。
 2. 重症化しやすい方(高齢者や基礎疾患がある人)で、発熱やせきなどの比較的軽い風邪の症状がある場合。
 3. 比較的軽い風邪が続く。 ※ 発熱症状が出ない感染ケースもあるため、上記症状を感じた場合は必ず相談してください。

【厚生労働省・健康や医療相談の情報】

https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kenkou-iryousoudan.html#h2_1

【帰国者・接触者相談センター】（令和2年7月31日時点版

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/covid-19-kikokusyasessyokusya.html

- ・ 上記の目安に該当せず、「帰国者・接触者相談センター」や医師会、診療所等で相談を受けずに自宅療養する場合、発症から数えて2日および症状消失後より数えて3日間は活動を休むことを推奨します。症状が悪化、あるいは2日間の症状持続が見られた場合には速やかに「帰国者・接触者相談センター」や医師会、診療所等に相談してください。
- ・ 体調不良者は、体調不良であることをチーム代表者に報告をしてください。また、**試合の4日前以降はチーム責任者は大会主催者に報告をしてください。**
- ・ 体調不良者は発症から数えて2日および症状消失後より数えて3日間は活動を休み、自宅療養することを推奨します。
- ・ 症状消失後3日間は自宅療養とする新型コロナウイルス感染症に対する一般方針があります。感染していたとしてもウイルスの排出量が少なくなり感染リスクを下げるができるためです。

【開催時における感染予防対策について】

◆陽性者が出た場合の対応

(1) 陽性者本人の対応

- ・ 陽性者は、保健所の指示に従って、療養（原則入院またはホテル隔離(自宅待機の場合あり))を行ってください。
- ・ 2週間の行動記録提出、感染対策内容調査等がなされます。
- ・ 検査結果、医療機関もしくは保健所から指導された療養方法とその他指導などの情報を所属チームと所属校に共有してください。
- ・ 陽性と判定された方が退院(入院・自宅宿泊療養)できるのは、厚生労働省の基準によります。

【厚生労働省退院基準・解除基準の改定】

<https://www.mhlw.go.jp/content/000639696.pdf>

- ・ 療養終了後(日数は症状により異なる)は、トレーニング再開ガイドラインなどを参考に、ケガ防止を考慮しながら徐々に活動量・強度を増やすようにしてください。

(2) 陽性者が所属するチームの対応

- ・ 大会事務局、所属長(学校の場合)、都道府県協会へ報告してください。
- ・ 保健所の指示に従って濃厚接触者の特定及び感染拡大に対するリスクの管理を行ってください。
- ・ 陽性者の症状が出た時点から48時間前までにチーム活動があった場合は、保健所による濃厚接触者の選定が決定されるまでは、チーム活動を自粛してください。
- ・ 保健所により濃厚接触者が特定された場合、陽性者/濃厚接触者以外のメンバーで活動を再開することは可能です。
但し、保健所や自治体の指示がある場合はこれに従ってください。
- ・ 陽性者の症状が出た時点から48時間前までにチーム活動がなかった場合は、チーム活動を実施することは可能です。
但し、保健所や自治体の指示がある場合はこれに従ってください。
- ・ 活動の停止や大会参加への自粛が行われる場合、このことに対してチーム内、チーム関係者、保護者等の間での誹謗中傷の防止に努めてください。

【開催時における感染予防対策について】

◆ 濃厚接触者が出た場合の対応

(1) 濃厚接触者と特定された選手・スタッフ本人の対応

- ・ 濃厚接触者は、保健所の指示に従って、自宅待機・隔離等の対応を取ってください。
- ・ 2週間の行動記録提出、感染対策内容調査等がなされます。
- ・ 検査結果をチーム責任者や所属校へ報告をしてください。
- ・ チーム内の陽性者との濃厚接触の場合か、チーム外の陽性者との濃厚接触の場合かを確認してください。
- ・ 療養終了後(日数は症状により異なる)は、ケガ防止のためにも段階的に活動再開するようにしてください。

(2) 濃厚接触者が選手・スタッフに出たチームの対応

- ・ 大会事務局、所属長(学校長)、都道府県協会へ報告してください。
- ・ チーム内の陽性者との接触によって濃厚接触者となった場合は「陽性者が所属するチームの対応」に従ってください。
- ・ チーム外の陽性者との接触によって濃厚接触者となった場合で該当の濃厚接触者が無症状である場合、濃厚接触者認定日から48時間(次の日から最低2日間)はチーム活動を制限してください。
- ・ 該当の濃厚接触者に発熱や感染症状がある場合は、検査結果が出るまで(または隔離解除となるまで)はチーム活動を自粛してください。
- ・ チーム外の陽性者との接触によって濃厚接触者となった場合、判明前48時間以内にチーム活動を行っていないければ活動を自粛する必要はありません。(該当の濃厚接触者が発症の有無にかかわらずPCR検査で陽性となった場合、発症日からさかのぼって48時間チーム活動を行っていないければ誰も濃厚接触者に該当しないため)
- ・ 活動の停止や大会参加への自粛が行われる場合、このことに対してチーム内、チーム関係者、保護者等の間での誹謗中傷の防止に努めてください。

【開催時における感染予防対策について】

(3) 選手・スタッフの同居者が濃厚接触者と特定された場合の対応

- ・ 選手・スタッフの同居家族や同居者がチーム活動以外の場によって濃厚接触者と判定された場合、選手・スタッフは濃厚接触者には該当しないため特別な制限はありません。
- ・ ただし、濃厚接触者に感染が疑わしい症状を認めた場合は、選手・スタッフは自宅待機を行い、症状出現時は体調不良者の対応と同様に「帰国者・接触者相談センター」(地域によっては医師会や診療所等)に相談してください。

◆大会開催期間中に感染・感染の疑いのある者が出た場合

- ・ 感染の疑いのある者が発生した場合には速やかに連携が図れるよう連絡体制を整え、大会事務局、所属長(学校長)、都道府県協会へ報告してください。
- ・ 自宅、宿泊先で異常を感じた場合には各自、各チーム、各社で対応をおこない、本人、濃厚接触を疑われるものは大会への参加を見合わせるようにしてください。

【開催時における感染予防対策について】

◆感染または、感染の疑いがある場合の報告事項

①報告する事象

下記に当てはまる場合、該当者は自宅待機とした上でチーム代表者を通じ、JBAへ報告をしてください。

- ・大会4日前から37.5度以上の発熱があった場合
- ・せき、頭痛、体のだるさ、のどの痛み、食欲低下、睡眠時間、味覚や嗅覚の異常が続いた場合
- ・発熱が無くても「息苦しさ(呼吸困難)」「強いだるさ(倦怠感)」等の強い症状が発生した場合
- ・陽性者および濃厚接触者指定を受けた、または疑わしい場合

②報告時に網羅いただくべき内容

- ・症状が発生している当該者の役職や所属セクション
- ・発生している症状と、発生期間
- ・医療機関の受診状況や、チームドクターなどへの相談経過
- ・選手やチームスタッフ、関係者との接触歴（症状発生から2日前にさかのぼって）
- ・関係者内での接触歴（症状発生から2日前にさかのぼって）

③選手、チームスタッフ、審判、関係者、スタッフおよび家族も含めた関係者に疑い例が出た場合の対応

- ・該当者は症状が出た日から14日前までの行動記録と、症状が出た日以降の行動記録のヒアリング、症状を自覚したタイミングで報告/自宅待機を行ってください。
- ・該当者は速やかに専門家・連携医療機関への連絡してください。
- ・各地域の専門家・連携医療機関のアドバイスにもとづく濃厚接触者の洗い出し、濃厚接触者の抽出および集団発生に対するリスク管理を行ってください。

④ご報告頂いた内容・ご相談内容の取り扱い

- ・専門家チーム、JBA内コロナ対応班だけが情報の閲覧を行います。
- ・関係者に共有する場合には、必要に応じて個人情報を取り除いたうえ、共有させていただきます。

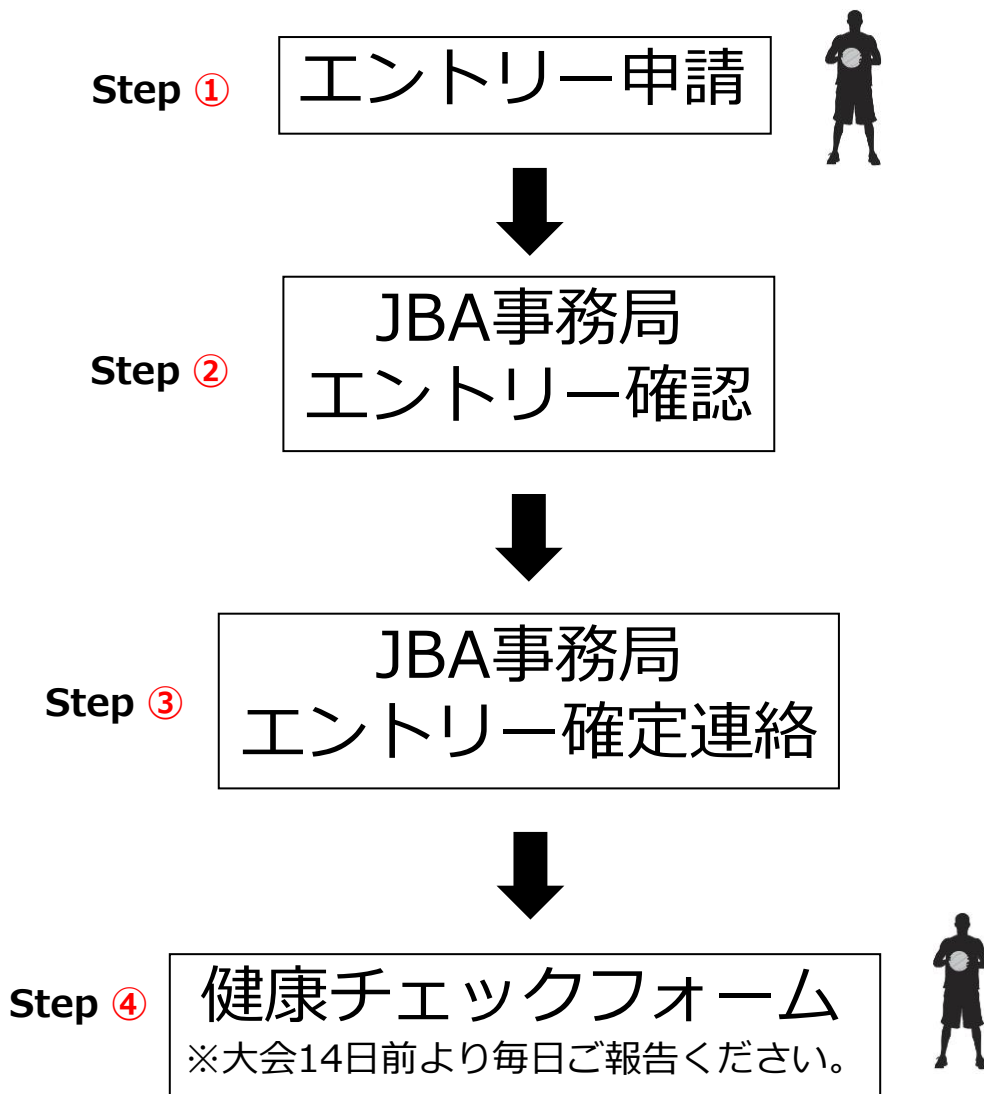
【参加資格】

- (1) 選手、チームスタッフは大会4日前～大会当日～大会期間中において、以下に該当しないこと。
- 1 37.5度以上の発熱がある
 - 2 咳（せき）、のどの痛み、などの風邪症状がある
 - 3 だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難が）がある
 - 4 臭覚や味覚の異常がある
 - 5 体が重く感じる、疲れやすい等がある
 - 6 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある
 - 7 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる
 - 8 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察機関が必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある
- ※上記に該当した際は、主催者にて大会参加を取り消す場合がある。

【その他、重要通知要項】

- (1) 「大会中止に至る状況」に該当した場合、大会中でも急遽中止せざるを得ない場合がある。
- (2) 主催者は、出場チームが十分な回復期間が確保されない場合は、原則として出場禁止または参加資格を取り消すことができる。
- (3) 主催者は、大会までに陽性者の回復、濃厚接触者の隔離期間解除がなされない場合は、出場禁止または参加資格を取り消すことができる。
- (4) 主催者は、出場チームに感染疑いが生じて安全性の判明が間に合わない場合は、出場辞退を勧告し、または参加資格を取り消すことができる。
- (5) 主催者は、大会中に出場チーム（対戦相手チームの場合もある）に濃厚接触者や感染疑いが生じた場合は、出場辞退を勧告し、または参加資格を取り消すことができること。
- (6) 主催者は、大会中に出場チームに37.5度以上の発熱者および別に記載のCOVID-19を考慮する症状を有する者が生じた場合は、出場辞退を勧告し、または参加資格を取り消すことができる。
- (7) 主催者は、対戦済みの相手（敗退したチーム）に感染疑いが発覚した場合、勝利して次戦がある当該チームに対して棄権を指示（勧告）できる。

【選手および帯同スタッフエントリーフロー】

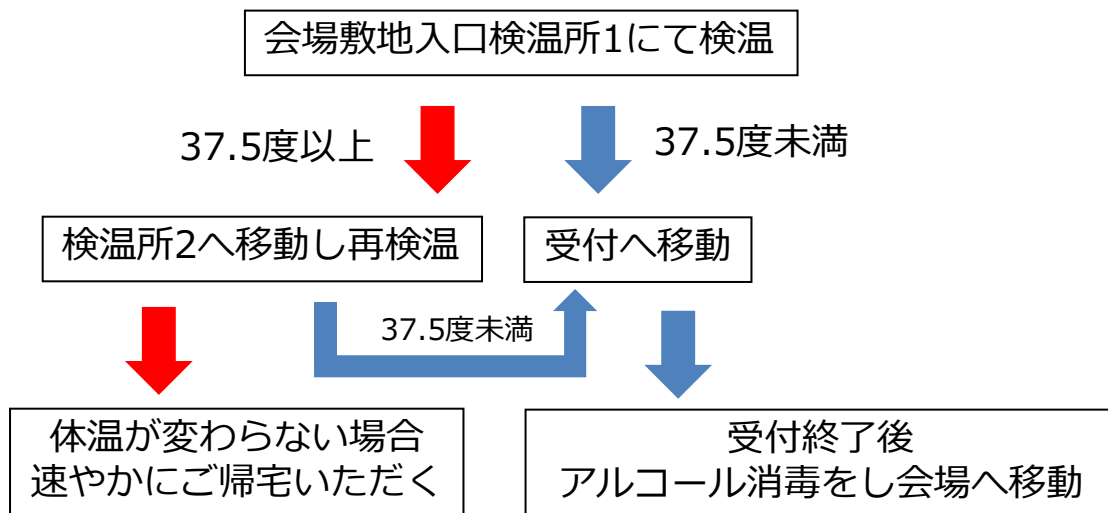


※大会14日前より検温を行い、毎日専用フォームにて報告。

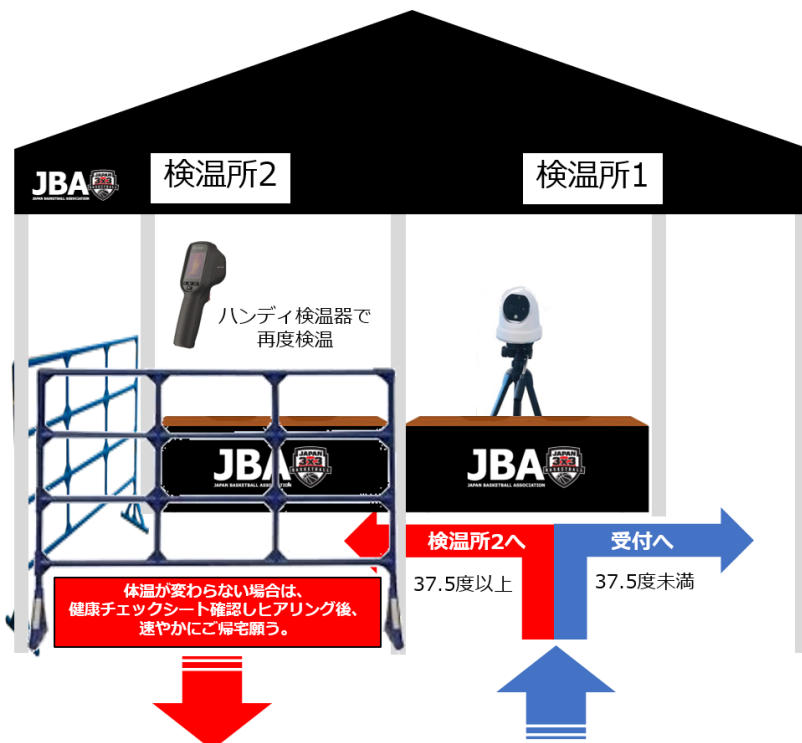
※大会4日前の検温および大会当日37.5度以上の発熱がある該当者はエントリーを取り消します。

※大会4日前の検温および大会当日発熱が確認された該当者のチームメンバーも濃厚接触の可能性が確認された場合、発熱がなくてもエントリーを取り消します。

【当日受付フロー】 ※スタッフ&選手共通



【検温所例】



【エントリー許可の選手、チームスタッフの皆様へ】

事前留意内容

大会当日まで下記の留意内容を遵守ください。

なお、大会当日も会場入り口にて検温検査を行います。37.5度以上の発熱があった場合、エントリーを取り消し速やかにご帰宅いただきますので、予めご了承ください。その際、チームメンバー（関係者含む）も濃厚接触の可能性が確認された場合、発熱がなくても同様の対応をさせていただきます。

『日常生活』

- ・ 不要不急の外出は控える。
- ・ 外出時や屋内でも会話を行う際は、必ずマスクを着用する。
- ・ まめに手洗い、手指消毒を行う。
- ・ 身体的距離の確保。(できるだけ2m。最低1m。)
- ・ 3密の回避。(密集・密接・密閉)
- ・ 毎日の体温測定、健康チェック。※健康チェックフォームでの報告が必須となります。

『練習』

(1) 十分な距離の確保

- ① 競技の種類に関わらず、運動をしていない間も含め、感染予防の観点から、周囲の人となるべく距離（2mが目安）を空けること。（介助者や誘導者の必要な場合を除く）
- ② 強度が高い運動・スポーツの場合は、呼気が激しくなるためより一層距離を空ける必要があること。
- ③ マスクをしていない場合には、十分な距離を空けるよう特に留意をする必要があること。

(2) 位置取り

- ① 走る・歩くにおいては、前の人呼気の影響を避けるため、可能であれば前後一直線に並ぶのではなく、並走する、あるいは斜め後方に位置取ること。

(3) その他

- ① 運動・スポーツ中に、唾や痰をはくことは極力行わないこと。
- ② タオルおよび飲料の共用はしないこと。

【エントリー許可の選手、チームスタッフの皆様へ】

当日留意内容

大会当日は下記の留意内容を遵守すること。

- ・まめに手洗い、手指のアルコール消毒を行うこと。
(試合前中後、トイレ前後、ボールおよび物への接触後等)
- ・会場内外では、必ずマスクを着用すること。(試合中は含まない)
※ウォーミングアップ中は熱中症に十分気を付けること。
- ・待機時における身体的距離を確保すること。(できるだけ2m。最低1m。)
- ・3密を回避すること。(密集・密接・密閉)
- ・タオルおよび飲料、サプリメント(プロテインバー・チャージ系ゼリー)の共用はしないこと。
- ・会場内での食事は禁止とする。
- ・チーム同士、審判との握手、ハイタッチは行わないこと。
- ・他のチームの集合写真、円陣等密になることは行わないこと。
- ・水やスポーツドリンクは各選手専用のペットボトルを準備すること。
- ・クーラーやタンクの共有は行わないこと。
- ・ビブスの共有は行わないこと。
- ・記録のために共有する文房具等、共有して使用するものは消毒すること。
- ・車いすのハンドリムや触れる場所はよく拭き、清潔に保つようにすること。
* 塩素系の消毒液の使用は避け、アルコールもしくはエタノールで拭くこと。
* ゴム製品は雑巾で水拭きしてゴミを取り、乾いてから除菌スプレーや、シートで拭くこと。

【健康チェックフォーム】

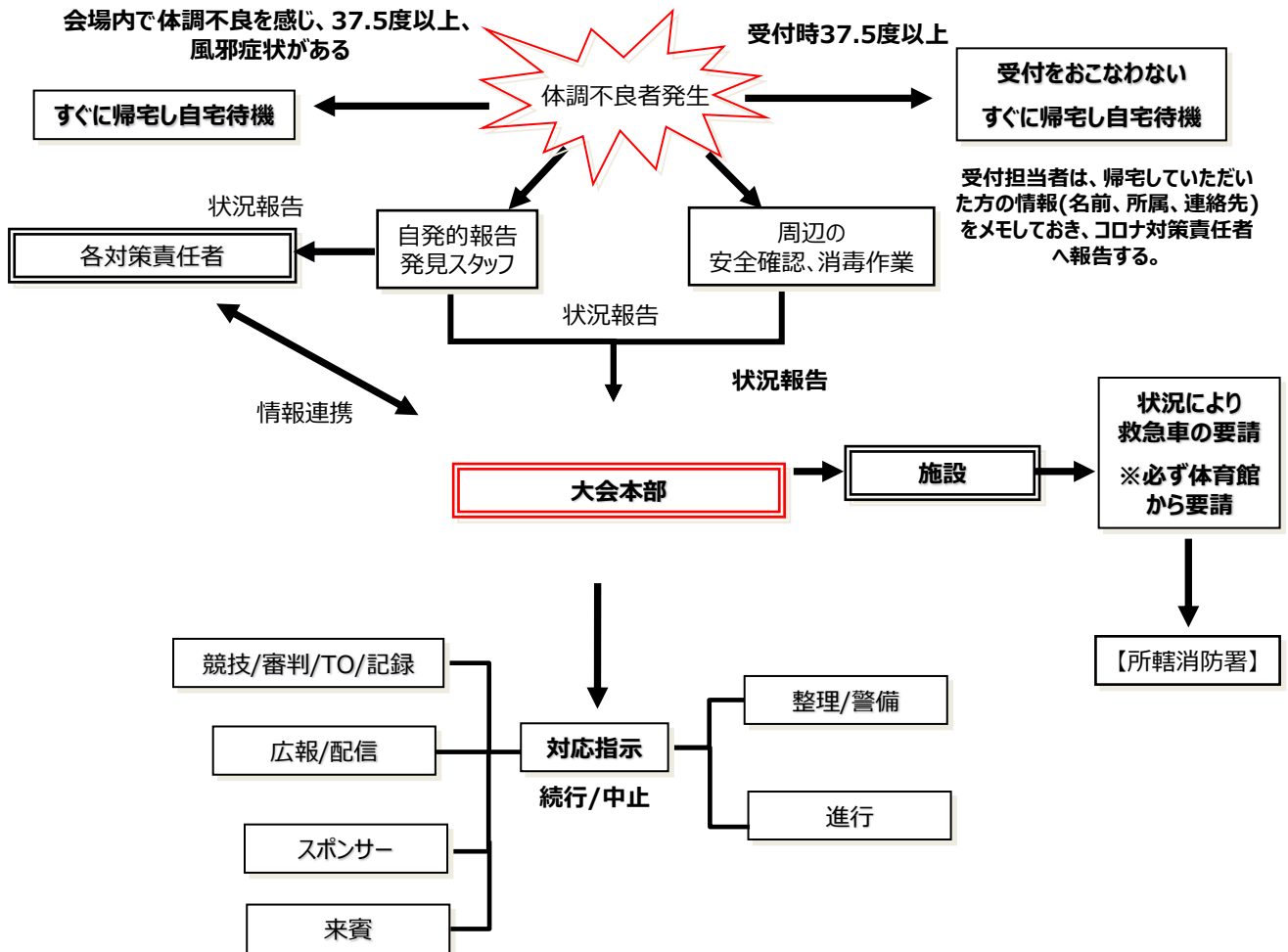
エントリー後、主管者から送付される指定の方法にて14日間の健康管理を行う。
※下記のひな型とは異なるフォームの場合がございます。大会前に主管から送付されるフォームをご確認ください。

The screenshot shows the ONDU app interface for a health check. At the top, there is a menu icon, the ONDU logo, and a small circular icon with 'JAPAN 3x3 2022'. Below this is a section for '本日の体温 / °C' (Today's Temperature / °C) with a dropdown arrow above the value '36.5', flanked by '36.4' and '36.6'. Below the temperature is a section for '本日の症状' (Today's Symptoms) with two buttons: 'あり' (Yes) and 'なし' (No), where 'なし' is selected. This is followed by '接触確認アプリから通知' (Notification from Contact Confirmation App) with 'あり' and 'なし' buttons, where 'なし' is selected. Below that is a 'メッセージ' (Message) section with an information icon and a text input field containing the placeholder 'ここをタップして記入してください' (Tap here to enter). At the bottom of the form is a large pink '登録' (Register) button and a smaller grey button labeled '検温について' (About Temperature Check).

◇コロナ感染対策フロー

◆大会開催期間中に感染の疑いがある者が出た場合

- ・感染の疑いのある者が発生した場合には速やかに連携が図れるよう連絡体制を整え、施設に連絡してください。
- ・自宅、宿泊先で異常を感じた場合には各自、各チーム、各社で対応をおこない、本人、濃厚接触を疑われるものはイベントへの参加を見合わせるようにしてください。





■×☞
